

# RX-2610L-NT RX-2610H-NT

## 取扱説明書



本機をご使用になる前に、必ず取扱説明書を  
良くお読みください。  
取扱説明書は大切に保管してください。

### はじめに

このたびは、本機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
この取扱説明書は本製品の性能をいつでも最大限に発揮し、安全に、正しく能率的な作業を進めていただくため、必要な取扱操作の手順や点検、手入れの方法などをまとめてあります。

(株)新宮商行の方針は、常により優れた本機を市場に提供するために、絶えず設計、製造、技術の改良を続けることです。従って仕様、装備、色、デザインと価格を予告無しに変更する事があります。又、(株)新宮商行は、すでに出荷済みの本機に対して、あらかじめ通知や改良品の供給をすること無しに、そのような変更を行う権利を留保します。

- ★ 機械寿命を高めるため純正品、指定品をお使いください。
- ★ 部品交換をするときには純正品を使い、正しく修理してください。
- ★ 故障したとき（又は定期整備時）はお買い求め戴いた販売店へご用命ください。
- ★ 不明な点は、御気軽にいつでも販売店へおたずねください。

### すべての安全規則を守ること！

☆ この取扱説明書に記載されている危険、警告、及び注意事項をよく読み、確実に理解してください。

文中の危険、▲警告、△注意は安全上及び取扱上特に重要な部分ですので、必ず守ってください。

#### ▲ 危険：取扱上、極めて危険な事項についての説明です。

ここに説明された事項については、間違った取り扱いをしますと  
重傷や死亡事故の原因にもなりますので必ず守ってください。

#### ▲ 警告：特に重要な取扱上の警告事項です。





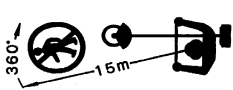




ここに説明された事項については、間違った取り扱いをしますと  
重大な事故や負傷の原因にもなりますので必ず守ってください。

#### △ 注意：正しい操作のための注意事項です。

ここに説明された事項については、間違った取り扱いをしますと  
事故や機械の故障の原因にもなりますので必ず守ってください。

## 警告表示のマークについて

説明を分かりやすくするため、本機、取扱説明書には下記のようなマークを使用しています。

|  |  |
|--|--|
|   | 本機をご使用になる前に、必ず取扱説明書を良くお読みください。   |
|   | 作業時には保護メガネ、防音保護具(耳栓など)、保安帽を必ず着用してください。   |
|   | バリカン刃を取り扱う際には、必ず保護手袋を着用してください。   |
|   | 始動の際に思いがけずバリカン刃が動き出し、作業者や周囲の人に危害を与えることがあります。始動時には十分に注意してください。                  |
|   | 本機の作業者は作業者から15m以内に人やペットを入れてはいけません。人やペットが入ってきた場合には、すぐにエンジンを止め、バリカン刃の摺動を止めてください。 |
|   | エンジンの排気ガスには人体に有害な一酸化炭素が含まれています。直接吸い込んだり、換気の悪いところでの使用はやめてください。                  |
|   | 本機は引火しやすいガソリンを含む混合燃料を使用していますので、引火の恐れのある場所では給油、燃料の保管、刈払作業などを行わないでください。          |
|   | エンジンの点火部には高圧電流が流れますので、直接触れると感電事故の原因となります。                                      |
|  | エンジンやマフラー、及びその周辺は高温になりますので直接触れるとやけどを負うことがあります。                                 |

## 使用上の注意

### ▲ 警告

- ◇ 正しい操作のために注意、警告事項を守ってください。注意、警告事項を守らないと重大な事故に結びつくことがあります。

## 基本的注意事項

### ▲ 警告：取扱説明書を熟読してください

- ◇ 本機をご使用いただく前に、必ずこの取扱説明書を読み、操作、保守、点検を充分理解した上で使用すること。



### ▲ 警告：用途以外の使用禁止

- ◇ 本機はバリカン刃を摺動させて畦草を刈るために設計、製造されています。それ以外の用途（生け垣や立木の枝刈りなど）には使用しないでください。
- ◇ 本機はバリカン刃を高速で摺動させて対象物を刈る機械です。取扱方法を誤ると深刻なけがや事故の原因となります。

### ▲ 警告：使用者の制限、又は禁止

- ◇ 本機の利用者及び管理者は、本機の取扱内容を理解していない人や、**子供**には、本機を使用させないこと。
- ◇ 疲れているとき、体調が悪いとき、病気の時、医薬品を服用したとき、飲酒したときには本機を使用しないこと。

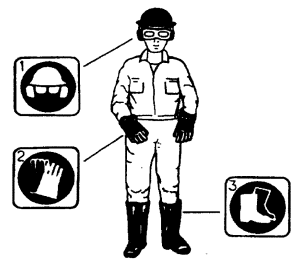
### ▲ 注意：貸与、譲渡時の注意事項

- ◇ 本機を他人に貸与または譲渡する場合は取扱方法を充分説明し、この取扱説明書を必ず添付すること。

## 作業前の注意

### ▲ 警告：正しい服装と保護具の着用

- ◇ 作業時には、①保護メガネ、防音保護具(耳栓など)、保安帽、②防振手袋、③安全長靴を必ず着用してください。
- ◇ ダブダブの服、装飾品などの本機や枝などにひっかかる可能性のあるもの、また半ズボンなど肌を露出する服は、着用しないでください。
- ◇ 刃を扱うときには、保護手袋を必ず着用してください。



### ▲ 警告：使用前の点検について

- ◇ 本機を使用する前には、必ず取扱説明書の記述に従って、点検、整備を行うこと。
- ◇ 使用に適さない部品や、異常が発見された場合には、速やかに販売店などに点検、修理を依頼すること。なお、部品は純正部品を使用すること。

### ▲ 危険：燃料の混合、補給時の火気厳禁

- ◇ **火気厳禁**：燃料混合時や給油時には、必ずエンジンを止めてください。また、たばこの火やたき火のような火気のあるところでは燃料混合や給油を行わないこと。
- ◇ **火気厳禁**：始動の際には必ず、給油箇所から3m以上離れること。
- ◇ 給油時に燃料がこぼれた場合は燃料を本機から完全にふき取ること。
- ◇ 燃料の補給後はタンクキャップを確実に締めること。



### ▲ 警告：バリカン刃の取り扱いについて

- ◇ バリカン刃を取り扱う際には、必ず保護手袋を着用すること。
- ◇ バリカン刃はいつも正しく目立てしたものを使用し、「割れ」や「欠け」があるものは、絶対に使用しないこと。

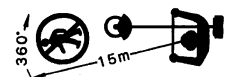


### ▲ 警告：危険緩和装置の取り外し禁止

- ◇ 肩掛けバンドなどを取り外して使用してはいけません。

### ▲ 警告：作業範囲への他社の立入禁止

- ◇ 作業員から半径15m以内を作業範囲とし、この範囲に人や家畜が入ってきた場合は、すぐにエンジンを切り、バリカン刃の撹動を止めてください。



### ▲ 警告：作業環境について

- ◇ 刈払作業の範囲にある石、ガラス、釘、針金などのバリカン刃がはね飛ばしたり噛み込みそうなものや、ツタ、紐などのバリカン刃に絡み付きそうなものは、前もって取り除いておくこと。
- ◇ 夜間、及び照明のない所など視界の悪い場所では本機を使用しないでください。
- ◇ 雨天時、又は雷天時には本機を使用しないでください。

### ▲ 警告：排気ガスについて

- ◇ 屋内や換気の悪い場所でエンジンを始動、運転してはいけません。エンジンの排気ガスには人体に有害な一酸化炭素などの物質が含まれています



### ▲ 警告：エンジンの始動時の制限、又は禁止

- ◇ 始動時のバリカン刃の摺動には充分注意すること。始動の際に思いがけずバリカン刃が摺動し、作業者や周りの人に危害を与えることがあります。はじめにエンジンの停止方法（11 頁参照）をよく理解してください。
- ◇ エンジンの始動方法を理解しないうちに、エンジンを始動してはいけません。
- ◇ エンジン始動時は、必ず本機を地面の上に置き、バリカン刃が地面や障害物などに触れていないことを確認してから始動すること。
- ◇ エンジンが始動したら停止スイッチを押して、確実にエンジンが停止することを確認すること。
- ◇ メインパイプ(操作桿)を取り付けていない状態で、絶対にエンジンを始動しないこと。

### 作業中の注意

### ▲ 注意：作業姿勢の注意

- ◇ しっかりとした平らな場所に立つようにし、常にバランスを保つように作業すること。

### ▲ 警告：作業中のバリカン刃についての禁止事項

- ◇ 作業中は、バリカン刃を岩や金属などの切ることができない物や地面に故意に接触させないこと。
- ◇ バリカン刃を岩や金属などの切ることができないものや地面に不意に接触させてしまったときは、エンジンを止め、バリカン刃の摺動が止まってからバリカン刃を点検すること。
- ◇ バリカン刃に「割れ」や「欠け」がある場合はバリカン刃を交換し、取り付け部に「緩み」や「ガタ」があるときはバリカン刃を正しく付け直してください。
- ◇ 動いているバリカン刃に触れたり、物を当てたりしないこと。
- ◇ 本機を下に置くときはエンジンを停止し、完全にバリカン刃の摺動が止まっていることを確認すること。
- ◇ 作業中はバリカン刃を腰よりも高く上げないこと。

### ▲ 警告：エンジンのアイドル回転数の調整

- ◇ アイドリング回転時にバリカン刃が摺動すると危険です。アイドル回転時にバリカン刃が摺動するようであれば、お買い求めの販売店にアイドル回転数を調節するように依頼してください。

### ▲ 注意：飛散物について

- ◇ 摺動するバリカン刃が小さな物に接触したときに、周囲に跳ね飛ばされることがあります。
- ◇ 本機はバリカン刃を往復させることで飛散物の発生を抑えておりますが、それでも小さなものが周囲にはね飛ばすことがあります。
- ◇ 作業者に飛散物が飛ぶことがありますので、飛散防護カバーや保護メガネなど用いて怪我などに注意してください。
- ◇ 作業中は土砂や雑草などが周囲に飛散しますので周囲に汚せない物や傷つけられない物があれば、移動するか、シートなどで飛散物から保護してください。

### ▲ 警告：運転中の高電圧部、高温部の接触禁止

- ◇ 本機の運転中は、点火プラグキャップ部や、高圧線に触れてはいけません。感電事故の原因となります。
- ◇ 運転中はエンジンやマフラー、及びその周辺に触れてはいけません。また停止後もしばらくは高温ですので触れてはいけません。



### ▲ 警告：エンジン、及びバリカン刃の回転、摺動中の点検・修理の禁止

- ◇ 本機の点検・修理・作業中断時は必ずエンジンを停止し、バリカン刃の摺動が完全に止まってから行うこと。
- ◇ 作業中にバリカン刃が障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止し、バリカン刃の摺動が止まっていることを確認してから、点検を行うこと。
- ◇ 本機に異常を感じたらただちにエンジンを停止し、バリカン刃が止まっていることを確認してから点検を行うこと。
- ◇ バリカン刃の周辺部に雑草、つるなどが絡まったときは、ただちにスロットルレバーを低速に戻し、エンジンを停止し、バリカン刃が止まっていることを確認してから、点検・除去すること。  
エンジンをかけたままバリカン刃の周辺部の雑草、つるなどを除去すると不意にバリカン刃が動きはじめ、非常に危険です。



### ▲ 注意：作業姿勢の注意

- ◇ 二人以上で作業する場合は、作業の終了や危険発生などを知らせる合図をあらかじめ作業間で決めて作業すること。また、合図には遠くからでも合図ができるように、呼子（ホイッスル）などを使用すること。
- ◇ 作業者同士の間隔は、15m以上とること。

### 作業後の注意

### ▲ 警告：損傷したバリカン刃の使用禁止

- ◇ バリカン刃は使用する前に「割れ」「欠け」「反り」「ひび割れ」などがいないか確認すること。不適切な、バリカン刃は廃棄すること。

### ▲ 警告：高温時の点検、清掃の禁止

- ◇ エンジンやマフラー、及びその周辺は、エンジン停止後はしばらく高温です。点検・清掃は十分に冷えてから行うこと。

### ▲ 警告：バリカン刃周りの清掃

- ◇ バリカン刃を取り扱う際には、必ず保護手袋を着用すること。
- ◇ 作業後はバリカン刃やギアやその周りに絡み付いている草やツタなどを取り除くこと



### ▲ 警告：保管時の注意

- ◇ 長期間使用しないときは、燃料タンクやキャブレターの中の燃料を空にして、屋内の湿気やほこりの少ないところに保管すること。
- ◇ 保管時は必ずノコバカバーをバリカン刃に取り付けること。
- ◇ 子供の手の届かないところに保管すること。

### ▲ 警告：運搬時の注意

- ◇ 使用中に次の作業地へ移動するときは、たとえ短い距離でも必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから、バリカン刃にノコバカバーを取り付けること。
- ◇ 車などで輸送するときは、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから、燃料タンクを空にし、バリカン刃にノコバカバーを取り付けて、動かないようにしっかりと固定すること。ただし、メインパイプ（操作桿）が曲がらないように、充分注意してください。

## 各部名称

|    |       |             |     |         |
|----|-------|-------------|-----|---------|
|    | No.   | 名 称         | No. | 名 称     |
|    | 1     | ギアケース       | 13  | 燃料キャップ  |
|    | 2     | バリカン刃       | 14  | エアクリーナ  |
|    | 3     | メインパイプ      | 15  | スパークプラグ |
|    | 4     | 警告ラベル       | 16  | スターター   |
|    | 5     | シリアルナンバーラベル | 17  | マフラー    |
|    | 6     | ハンドル固定具     | 18  | 後方グリップ  |
|    | 7     | スロットルレバー    | 19  | 肩掛けバンド  |
|    | 8     | 右ハンドル       | 20  | ループハンドル |
|    | 9     | 左ハンドル       |     |         |
|    | 10    | ハンガー        |     |         |
|    | 11    | 腰当          |     |         |
| 12 | 燃料タンク |             |     |         |

## 組立について

### エンジンとメインパイプ(操作棒)の取り付け

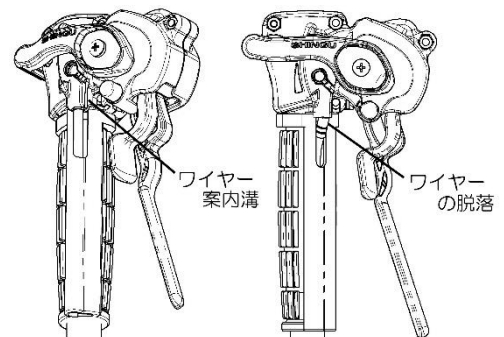
1. 抜け止めスクリューを取り外してください。
2. メインパイプ(操作棒)の片端に付いている差込マークの矢印までエンジンのクラッチハウジングを差し込みます。
3. このときメインパイプ(操作棒)先端のバリカン刃の取付部が下を向くように合わせてください。
4. パイプと本体の抜け止め穴を目視であわせてください。
5. 抜け止めスクリューと締付けスクリューをしっかりと締付けてください。



### スロットルワイヤーの取り付け

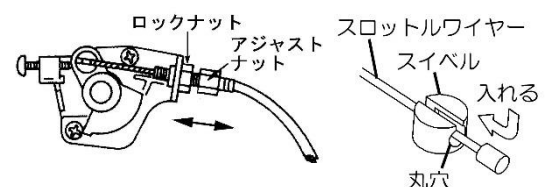
#### ツェグリップ/ループハンドル/両手ハンドルモデル

1. ワイヤーがスロットルレバーのワイヤー案内溝にきちんと入っているか確認してください。  
外れている場合があります。



### ⚠ 注意

- ◇ スロットルワイヤーを取り付け終わったら、必ずスロットルワイヤーがキャブレターのアジャストナットに確実に入っているかどうか、確認してください。
- ◇ スロットルワイヤーがキャブレターのスィベルから抜け出していないか確認してください。

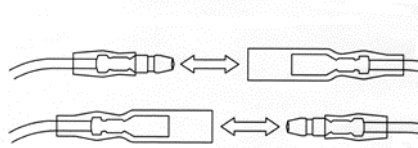


### スロットルワイヤーの遊びの調節

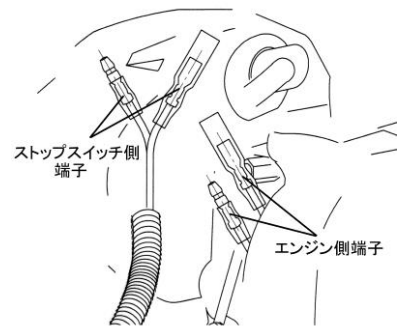
スロットルワイヤーの遊びは0.5～1.0mmになるように調節します。アジャストナットを回して、スロットルワイヤーの遊びを調節します。

## 配線の取り付け

1. ストップスイッチ側（メインパイプ側）の2本の端子（ギボシ端子オスメス）とエンジン側の2本の端子（ギボシ端子オスメス）を結合してください。



ギボシ端子オス・メス



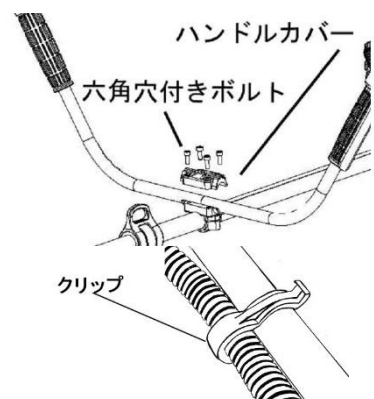
## コルゲートチューブの取り付け

1. スロットルワイヤーとリードワイヤーをまとめます。
2. コルゲートチューブの割れている部分を外側にして直角に曲げ、押し込むように入れていきます。



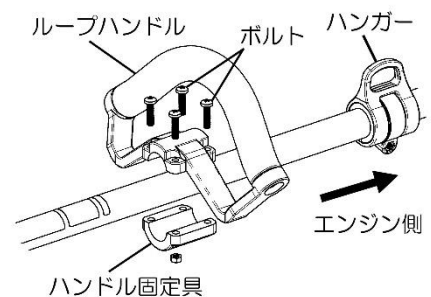
## 操作ハンドルの取り付け（両手ハンドルモデル）

1. メインパイプに組み付けられているハンドルクランプの上側の六角ボルト4本を外し、ハンドルカバーを外します。
2. 両手ハンドルをハンドル固定具に左右に傾かないように置き、ハンドルカバーをかぶせます。（左右のハンドルがハンドル固定具の中央付近で接触するようにしてください。）
3. 六角ボルト4本を軽く締め付け、ハンドルを作業しやすい角度に合わせます。
4. 六角ボルト4本を均等に締め付けます。
5. クリップにコルゲートチューブを付けてからハンドルに取り付けてください。



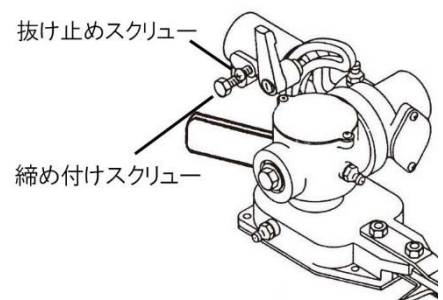
## ループハンドルの取り付け（ループハンドルモデル）

1. ループハンドルと固定具を合わせます。ループハンドルをハンドル固定具に、左右に傾かないようにパイプを挟んで合わせます。このときループハンドルは傾いているほうをエンジン側に向けてください。
2. 作業しやすい位置に合わせます。ボルト4本を軽く締め付け、ループハンドルを作業しやすい位置に合わせます。
3. ボルトをしっかりと締め付けます。ループハンドルと、ハンドル固定具の間が均等になるように、ボルト4本を均等にしっかりと締め付けます。



## ギアケースの取り付け

1. ギアケースにある抜け止めスクリューと締め付けスクリューをゆるめます。
2. パイプ側の穴と抜け止めスクリューの位置をあわせて抜け止めスクリューと締め付けスクリューをしっかりと締め込みます。



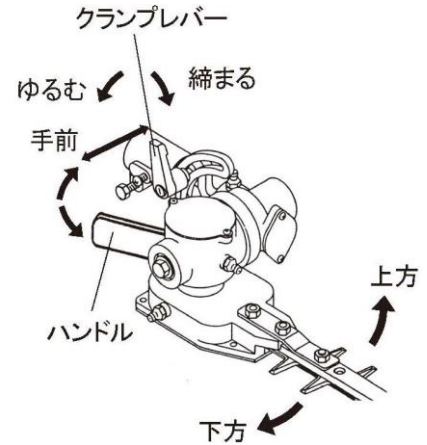
## バリカン刃角度の調整

### ▲ 警告

- ◇ バリカン刃を扱う時には必ず保護手袋を着用すること。
- ◇ 必ずエンジンが停止していることを確認してから行ってください。
- ◇ 角度を調節する際には必ずハンドルを持ってください。



1. クランプレバーをゆるめ、ハンドルを上下させ、作業に適した角度に調整してください。
2. クランプレバーが締まり（ゆるみ）切らない場合はクランプレバーを手前に引いて空転させてレバーの位置を動かしてから再度締め付け（ゆるめ）てください。



## 燃料の混合と給油

### ▲ 危険

- ◇ **火気厳禁**：必ず、火の気の無い場所で行うこと。又、燃料混合の時にはタバコを吸ってはいけません。燃料に引火して、火災ややけどの危険があります。
- ◇ 給油の際、燃料がこぼれた場合には、こぼれた燃料を本機から完全にふき取ること。こぼれた燃料が引火して火災ややけどの危険があります。
- ◇ 給油の際、ハンドルにオイルや燃料が付いていたら、ふき取ること。ハンドルにオイルやガソリンが付いていると手が滑り、重大な事故を引き起こす危険があります。



### ▲ 警告

- ◇ タンクキャップは確実に締付けること。
- ◇ 作業の途中で給油するときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行なうこと。

### ▲ 注意

混合燃料は正しく混合された新しいものを使用すること。

- ◇ 生ガソリン(混合されていないガソリンのみのもの)
- ◇ 混合比率の間違ったもの
- ◇ 混合されてから30日以上経過したものや、変質したもの
- ◇ 砂やゴミ、水などの入ったもの

は絶対に使用しないでください。エンジンの寿命を縮めるばかりか、故障の原因となります。

- ◇ エンジンの燃料タンク内でじかに混合しないこと。

## 燃料および混合比率

- 本機の燃料には無鉛ガソリンに2サイクルエンジン用オイルを混合した物を使用します。混合は燃料タンクで行わず別の容器を用意して行います。
- 弊社発売の専用エンジンオイル「SS-50 (JASO 規格 FC 級)」を御使用ください。

|                 |       |        |        |
|-----------------|-------|--------|--------|
| ガソリンの量          | 1 l   | 5 l    | 10 l   |
| エンジンオイルの量       | 20 cc | 100 cc | 200 cc |
| 混合比率 < 50 : 1 > |       |        |        |

燃料の混合、及び携帯には、弊社発売の計量器付混合缶をご使用ください。正しい混合比率の混合燃料が、必要な量だけ簡単に作れます。



## 給油

1. 各部を点検し、ゆるんでいるナットやボルトがあれば増し締めます。
2. 燃料タンクと飛散防護カバーが台になるように本機を平らな地面の上に置きます。
3. 正しく混合した燃料を燃料タンクに給油します。

## 始動から停止まで

### 始動

#### ⚠ 危険

はじめにエンジンの停止方法（11 頁参照）をよく理解してください。

- エンジン始動時は、必ず本機を地面の上に置き、バリカン刃が地面や障害物などに触れていないことを確認してから始動すること。
- 始動の際には、必ず給油した場所から、3m以上離れた場所で行うこと。
- ガソリンやオイルのそばで始動を行うと火災や、やけどの危険があります。
- 始動の際に思いがけずバリカン刃が摺動し、作業者や周囲の人に危害を与えることがあります。始動時には十分に注意してください。



#### ⚠ 注意：スターターについて

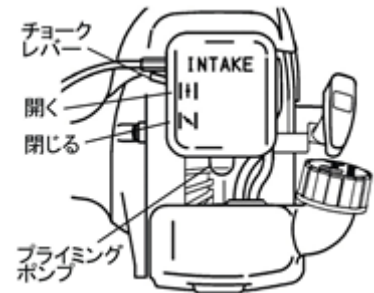
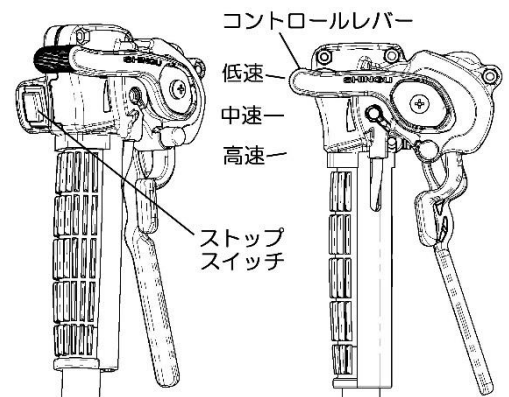
☆ ロープが引き出せないところまで（力を入れて）引ききると故障の原因になることがあります。

### ◎エンジンが冷えている場合

1. 安全のため、ストップスイッチの位置を確認します。
2. コントロールレバーを低速（始動位置）にします。
3. キャブレターのプライミングポンプを数回押します(10 回以上)

燃料が透明のオーバーフローパイプを通り始めますので、オーバーフローパイプ内を流れる燃料に気泡がなくなるまで、プライミングポンプを繰り返し押します。  
(プライミングポンプを必要回数以上に押した場合でも、余分な燃料は燃料タンクの中に戻りますので、燃料を吸込み過ぎる状態になることはありません。)

4. チョークレバーを「閉じる」の位置まで下げて、チョークを閉じます。
5. 左手でクラッチケースをしっかりと押え、右手でスターターハンドルを持ち、スターターハンドルを勢いよく引きます。
6. エンジンがかかったら、チョークレバーを「開く」の位置までゆっくりと上げてチョークを開きます。
7. 爆発音がして、エンジンが止まった場合、またはエンジンがかかったが、チョークレバーを操作する前にエンジンが止まってしまった場合は、チョークを開いてからスターターハンドルを勢いよく引き、エンジンをかけます。
8. 1～2分間低速で暖機運転をしてください。



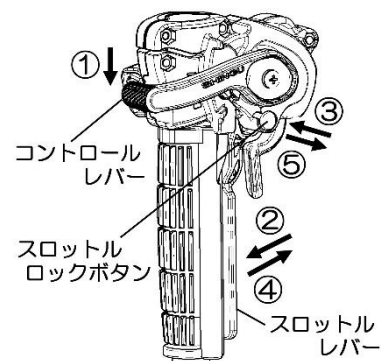
### ◎エンジンが暖まっている場合（エンジン停止直後など）

1. チョークレバーを「開く」の位置まで上げてチョークを開きます。  
左手でクラッチケースをしっかりと押え、右手でスターターハンドルを持ち、スターターハンドルを勢いよく引きます。数回引いてもエンジンがかからない場合には、「エンジンが冷えている場合」と同じ要領で始動を行います。

### ◎エンジンが始動しにくい場合（スロットル半開のしかた）

エンジンが始動しにくい場合は、スロットルロックボタンを使用してスロットルを半開にし、「エンジンが冷えている場合 4 項～8 項」（9 頁）に従ってエンジンを始動します。この場合、始動と同時にバリカン刃が回り出しますので、始動後は速やかにスロットルレバーを握ってロックを解除してください。

1. コントロールレバーを中速の位置にします。
2. スロットルレバーを握ります。
3. スロットルロックボタンを押します。
4. スロットルロックボタンを押した状態でスロットルレバーを放します。
5. スロットルロックボタンを放します。  
スロットルレバーが半開の位置でロックされますので、この状態で「エンジンが冷えている場合 4 項～8 項」(9 頁)に従ってエンジンを始動します。
6. もう一度スロットルレバーを握るとロックが解除されます。



### 肩掛けバンドの装着

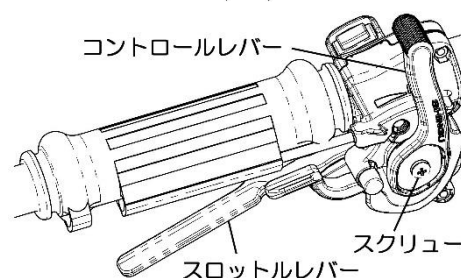
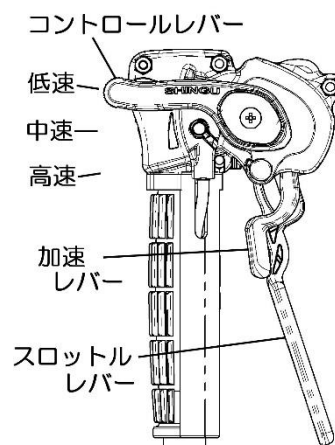
1. 付属の肩掛けバンドを左肩に掛け、フックが右腰に来るようにします。
2. 肩掛けバンドのフックをメインパイプのハンガーに引っ掛けます。
3. 作業姿勢をとったとき、バリカン刃が地面と平行になるように肩掛けバンドの長さでバリカン刃の角度を調節してください。

### 運転

#### △ 注意

☆ 燃料は出来る限り最後まで使い切らないうちに補給しましょう。使いきってから始動は困難です。

1. エンジンが始動したら、急に高速にしないで1～2分間ほどそのままの状態運転します。その後、スロットルレバーを握りながらコントロールレバーを中速側へ徐々に移動させ回転を上げます。  
スロットルレバーを放すと、アイドリングに戻ります。
2. スロットルレバーを開閉して、数回加減速を行います。これはキャブレター内の空気を抜くためで、空気があると加速不良やエンストなどが発生することがあります。
3. コントロールレバーで作業に適した位置に回転数を設定します。
4. 回転が落ち込んだ時など、一時的に回転数を上げたい場合は、加速レバーを操作して行います。
5. コントロールレバーが連れ回りする場合  
スロットルレバーを握った時に、コントロールレバーが連れ回りする場合は、スクリューを少しだけ締め込んでください。  
締め込みすぎるとコントロールレバーが動きにくくなります。



### 作業（スロットルレバーの操作）

- スロットルレバーを握った状態でコントロールレバーを中速側へ操作すると、エンジン回転が上がり、自動的にクラッチがつながり、バリカン刃が動き始めます。
- コントロールレバーを高速（スロットル全開）にするとエンジンの回転数は約 10,000r.p.m で回ります。作業は約 7,000～8,000r.p.m (コントロールレバーを高速から 1/3 程度戻した位置)で行ってください。
- 作業条件に合わせて、コントロールレバーでエンジンの回転数を調節してください。
- スロットルレバーを放すと、エンジンの回転が下がり、自動的にクラッチがきれます。
- スロットルレバーを放してもバリカン刃が止まらずにずっと動き続ける場合には、「キャブレター 12 頁」に従ってアイドリングの回転数を調節してください。

## 作業（畦草刈り）

- バリカン刃を地面に平行にして一方向に滑らせるように刈るのが基本的な刈り方になります。
- 畦草刈り作業は両足を適当な間隔に開き、体重移動が容易で安全な姿勢をとってください。
- また、エンジンなどの高温部には触れないように注意してください。
- 畦草刈りの操作は手（腕）だけの力で行わず身体全体、特に腰でバランスを取って行ってください。
- 穏やかな傾斜面で本機を使用するときには上下運動ではなく、横方向（等高線方向）に作業してください。

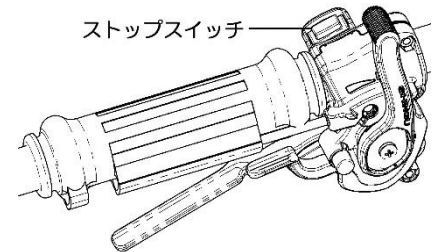


## 停止

### ⚠ 注意

◇ 緊急の場合は直ちにストップスイッチをエンジンが停止するまで押し続けてください。

1. スロットルレバーを放して、アイドリング（低速回転）でしばらく回します。
2. ストップスイッチを停止するまで押し続けてください。
3. スイッチの接触不良等により、ストップスイッチを押しつづけてもエンジンが停止しない場合はチョークレバーを「閉じる」の位置まで下げてチョークを閉じてください。しばらくするとエンジンが停止します。



## 手入れ方法

### ⚠ 注意

◇ 作業前の点検は必ず実施してください。本機に異常が発見された場合には、速やかに販売店に点検、修理を依頼してください。

- エンジンの寿命は手入れの良否で決まります。ボルト、ナットの緩みは毎日点検し、以下の手入れを守り、1年に1回は販売店で点検をしてください。

## 毎日の点検

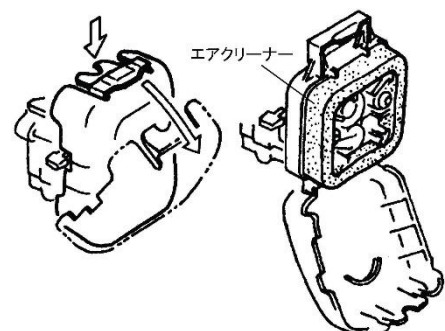
1. 使用前にボルトやナットがゆるんでいないか点検します。
2. バリカン刃は使用する前に、「割れ」や「欠け」「曲がり」「反り」「ひび割れ」が無い点検すること。
3. 燃料タンク、タンクキャップ、燃料ホース、その他から燃料がもれていないか点検します。
4. エアクリーナ、スパークプラグを点検します。

## エアクリーナの清掃

エンジンにはエンジン内部にほこりなどが入らないようにエアクリーナが付いています。エアクリーナが詰まると出力の低下や始動不良となりますので、時々、洗浄が必要です。また、汚れがひどい場合は交換します。

また、毎日使用する場合には一日に一回、清掃してください。

1. クリーナカバー上部の爪を押して開きます。
2. エアクリーナを取り出して中性洗剤入りのぬるま湯で良く洗い、良く乾かしてください。
3. 汚れがひどい場合にはエアクリーナを交換してください。
4. 洗浄が終わったら、エアクリーナを元のように取り付けます。

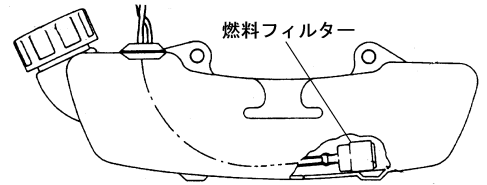


## 燃料フィルターの清掃

燃料ホースの先端（タンク内）には、フェルトのフィルターが付いており、ゴミや、砂などの異物がキャブレター内へ行かないようにしています。

フィルターに異物や水が付くと燃料を吸い上げることが出来なくなり、エンジンが不調となりますので時々洗浄が必要です。

1. タンクキャップを外し、燃料を抜き、燃料タンクを空にします。この時、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合は、きれいに抜き取ってください。
2. 燃料フィルターを針金などを使って給油口から引き出します。
3. 燃料ホース先端から燃料フィルターを取り外し、燃料フィルターをきれいなガソリンで洗浄し、元通り取り付けます。
4. 燃料フィルターがつまった場合、いたんでいる場合は交換してください。
5. 燃料フィルターを燃料タンク内に戻し、タンクキャップを確実に締付けてください。



## スパークプラグの清掃と調整

### ▲ 警告

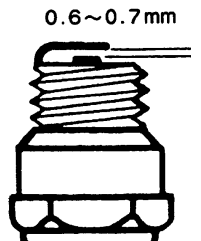
- ◇ 運転中は点火プラグキャップ部や高圧線に触れてはいけません。感電事故の原因となります。
- ◇ スパークプラグの電極間隔の調節は基本的に行ってはいけません。
- ◇ 電極間隔の調節に慣れていない人が調節を行なうと、かえってエンジンが不調となることがあります。
- ◇ 電極間隔の調節を行う場合はスパークプラグの扱いになれた人に依頼してください。



最良の運転状態ではスパークプラグの電極は茶褐色に乾燥しています。汚れていたら時々掃除します

又、スパークプラグの電極間隔は0.6mm～0.7mmが標準です。電極間隔が広すぎたり狭すぎたりするとエンジンが正常に動かなくなりますので、不調の場合には点検、調整を行います。

1. スパークプラグからプラグキャップを外して、プラグレンチでスパークプラグを取り外します。
2. 先を細くした金物やワイヤーブラシなどで電極に付着したカーボンを掃除します。
3. 電極間の隙間を0.6mm～0.7mmに調節します（不調の場合のみ）。
4. スパークプラグを再び取り付け、プラグキャップをはめます。
5. 電極の掃除、間隔の調整を行っても、正常に働かない場合には、スパークプラグを交換します。交換する際には下記のプラグ、又は相当品を使用してください。



スパークプラグ Champion CJ6Y

## キャブレター

### ▲ 警告

- ◇ キャブレターはあらかじめ工場では調節して出荷していますので、通常は調節の必要はありません。
- ◇ キャブレターの扱いに慣れていない人は、キャブレターの調節を行なってはいけません。間違った調節をしますとキャブレターだけでなくエンジンも壊れてしまうことがあります。調節は販売店に依頼してください。
- ◇ たとえ、キャブレターの調節が適切でないように見えても、キャブレターが原因でない場合がありますので、調節は販売店に依頼してください。

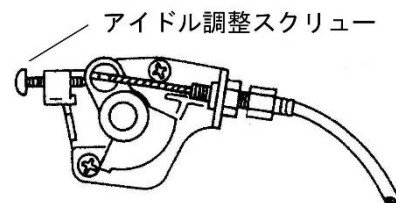
アイドルリング回転時にバリカン刃が動くと危険です。

アイドルリング回転時にバリカン刃が動くようであれば、アイドル調整スクリューでアイドルリング回転数を調節してください。

1. エンジンを始動させます。
2. コントロールレバーを中速にし、スロットルレバーを開閉して数回加減速を行います。
3. スロットルレバーを放します。
4. アイドリング調節スクリューを左右に回して、回転数 2700~3200 r.p.m の間でバリカン刃が動き出さないところに合わせてください

#### 参考

低速調整ネジ：標準開度 5+1/2



キャブレターが原因と思われる症状が合った場合でもキャブレターそのものが原因となっているとは限りません。周辺の燃料フィルターやエアクリーナの詰まりなどが原因となっている場合があります。まず、清掃を行なってください。

### シリンダーフィン

ほこりの多い所での使用、雨上がりの翌日、つゆ時の使用では草、ほこりなどがシリンダーフィンに詰まり、冷却効果が無くなりエンジンが過熱することがありますので、使用20時間ごとに清掃を行ってください。

### バリカン刃、テンションスクリュー、ロックナットの点検

#### ▲ 警告

- ◇ バリカン刃を扱う時には必ず保護手袋を着用すること。
- ◇ 保護手袋を着用せずにバリカン刃を扱うと、手や指にケガを負う原因となります。
- ◇ バリカン刃は使用する前に、「割れ」や「欠け」「曲がり」「反り」「ひび割れ」が無いか点検すること。



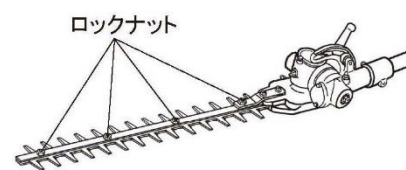
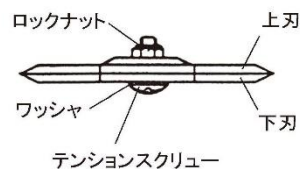
#### バリカン刃の点検

作業開始前と作業開始後には必ずバリカン刃を点検してください。

摩耗したバリカン刃、不具合品、割れたり欠けたバリカン刃は新品 (P/N 801801) と交換してください。

バリカン刃とバリカン刃の間は互いに摺動するため、少し隙間があるように調整されていますが、バリカン刃が摩耗し隙間が大きくなった場合にはバリカン刃の隙間調整を行ってください。

1. ロックナット (4箇所) をゆるめてください。
2. テンションスクリューを一旦締め付けた後、1/4~1/2 回転緩めてください。
3. テンションスクリューを動かさないうで、ロックナット (4箇所) を締め付けて固定してください。この時ワッシャーに遊びがあることを確認してください。



#### テンションスクリュー、ロックナットの点検

作業時間とともにテンションスクリュー、ロックナットは摩耗します。

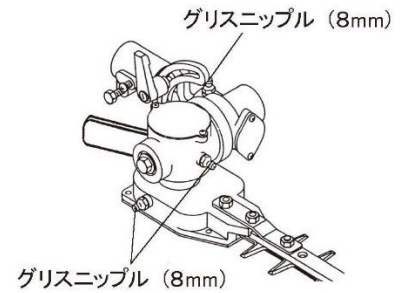
石や砂が多い場所での作業では摩耗も早まります。

テンションスクリュー、ロックナットが摩耗すると工具がかからなくなり取外しなどが困難になります。

作業前には必ずテンションスクリュー、ロックナットの摩耗を点検し工具がかからなくなったりネジ山が潰れてしまう前に交換してください。

## ギアケースの注油

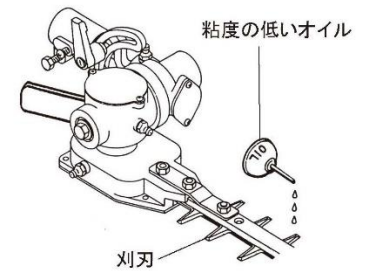
10時間ごとにグリスポンプなどでグリスニップル（3箇所）から耐熱性のリチウムグリース（#2）を注入してください。



## バリカン刃の注油

作業を中断した際など、合間を見てこまめにバリカン刃の合わせ面にオイルを注油してください。

オイルは粘度の低いもの（2サイクル専用オイル、4サイクル専用オイル、マシン油、ミシン油など）を使用してください。



## スレイ板

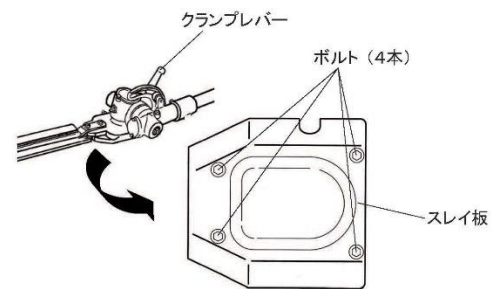
作業時間とともにスレイ板、取り付けボルトは摩耗します。

石や砂が多い場所での作業では摩耗も早まります。

取り付けボルトが摩耗すると工具がかからなくなり取外しなどが困難になります。

作業前には必ず取り付けボルトの摩耗を点検し工具がかからなくなったりする前に交換してください。

また、スレイ板が破損している場合は交換してください。



## 保管

長期間使用しない場合、正しく保管しなければ故障や、始動不良の原因となります。以下の手順で保管します。

### ▲ 警告

- ◇ 子供の手の届かないところに保管すること。
- ◇ 室内の湿気やほこりの少ないところに保管すること。湿気は点火システムに有害です。
- ◇ 必ずノコバカバーをバリカン刃に取り付けること。
- ◇ 燃料タンクから燃料を完全に抜くこと。混合燃料を燃料タンクに入れたままにすると変質します。変質した燃料をエンジンに入れたままにしたり、使用してエンジンをかけたりするとエンジンに大変悪い影響を与えます。

1. 燃料タンクから燃料を完全に抜きます。
2. キャブレターから燃料をなくすために、エンジンをかけ、スロットルレバーを放してアイドリングの状態のまま、ガス欠で止まるまで回します。
3. 燃料フィルターをガソリンでよく洗浄します（12頁「燃料フィルターの掃除」参照）。
4. 各部の点検、及び清掃をします。
5. スパークプラグを外し、シリンダーの内面やベアリングなどの錆止め、保護のために2サイクルオイルを1ccほど注入し、スターターをゆっくりと数回引いてスパークプラグを元通り取り付けます。
6. スターターをゆっくりと引いてみて圧縮（抵抗）を感じる位置で止め、湿気や埃などの少ない屋内に保管します。

## 簡単な故障と対策

| 現象                              | 推定原因                      | 対策  |
|---------------------------------|---------------------------|---|
| エンジンが始動しない。<br>またはエンジンの始動が困難。   | 始動手順が間違っている。              | 取扱説明書の「始動手順」に従ってください。   |
|                                 | スパークプラグの異常                | スパークプラグを取り外し、清掃と電極間隙の調整を行ってください。                              |
|                                 |                           | スパークプラグが濡れている場合はプラグを乾かしてから付け直し、エンジンが始動するまでスロットル全開で始動を行ってください。 |
|                                 |                           | スパークプラグが乾いている場合は、チョークを閉じて始動を行ってください。                          |
| 燃料フィルターが詰まっている。                 | 燃料フィルターを清掃または交換してください。    |   |
| エンジンは始動するが回転が上がらない。<br>又は出力が無い。 | チョークレバーが、間違った位置にある。       | チョークを「開く」の位置にしてください。  |
|                                 | マフラーが汚れている。               | マフラーを清掃してください。  |
|                                 | エアクリーナが汚れている。             | エアクリーナを清掃または交換してください。   |
| エンジン回転が不規則                      | スパークプラグの電極間隔が間違っている。      | スパークプラグを取り外し、清掃と電極間隙の調整を行ってください。                              |
| 排気ガスが多い                         | 燃料が不適である。または燃料混合比が間違っている。 | 正しい混合燃料を入れてください。  |

- 上の表以外の症状又は推定原因による故障については販売店にご用命ください。

## 定期整備表

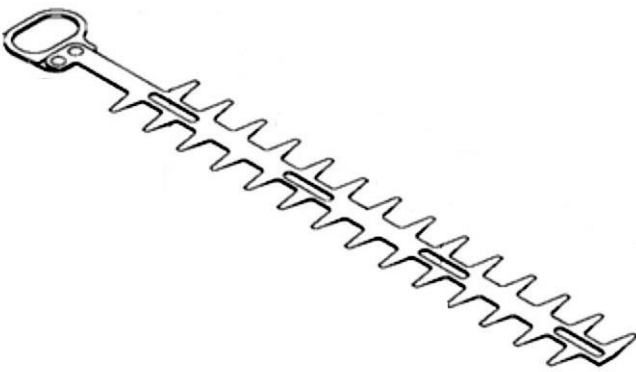
|             |         | 使用後 | 10<br>時間後 | 20<br>時間後 | 50<br>時間後 | 必要に<br>応じて |
|-------------|---------|-----|-----------|-----------|-----------|------------|
| ボルト、ナット類    | 点検と締付   | ○   |           |           |           |            |
| エアクリーナ      | 清掃または交換 |     | ○         |           |           |            |
| 燃料フィルター     | 清掃または交換 |     |           | ○         |           |            |
| スパークプラグ     | 点検      | ○   |           |           |           |            |
|             | *調整、交換  |     |           |           |           | ○          |
| マフラー内部      | *清掃     |     |           |           | ○         |            |
| エアギャップ間隔    | *清掃、調整  |     |           | ○         |           |            |
| シリンダー冷却フィン  | 清掃      | ○   |           | ○         |           |            |
| 冷却風取入れ口     | 清掃      | ○   |           | ○         |           |            |
| スターターロープ    | 点検または交換 | ○   |           |           |           |            |
| 燃料ホース       | 点検または交換 | ○   |           |           |           |            |
| ギアケース       | 給脂      |     | ○         |           |           |            |
|             | 清掃と点検   | ○   |           |           |           |            |
| バリカン刃の摩耗、損傷 | 点検または交換 | ○   |           |           |           |            |

- \*印の整備については販売店にご用命ください。

## 主要諸元

### ギアケース、バリカン刃部

|         |    |             |
|---------|----|-------------|
| 单品寸法    | 全長 | 700mm       |
|         | 全幅 | 130mm       |
|         | 全高 | 120mm       |
| 单品重量    |    | 1.8kg       |
| 減速比     |    | 1：4         |
| バリカン刃形状 |    | 両刃          |
| 有効刃長    |    | 405mm       |
| 角度調整    |    | 上 45度、下 90度 |

|  |                                  |
|--|----------------------------------|
| 取付パイプ径   | φ24                              |
| 取付ドライブシャフトエンド形状  | インポリュートスプライン (φ7×7 枚歯×モジュール0.75) |
| 交換用バリカン刃 (刈刃)  | 上下共通 (P/N <b>801801</b> )        |
|  |                                  |

| 型式                                  |    | RX-2610L-NT                         | RX-2610H-NT |
|-------------------------------------|----|-------------------------------------|-------------|
| ハンドル型式                              |    | ループハンドル                             | 両手ハンドル      |
| 寸法                                  | 全長 | 198cm                               |             |
|                                     | 全幅 | 24cm                                | 64cm        |
|                                     | 全高 | 24cm                                | 38cm        |
| 本体重量<br>(ISO11806 準拠) <sup>※1</sup> |    | 5.3kg                               | 5.7kg       |
| 燃料タンク容量                             |    | 550cc                               |             |
| 動力伝達方式                              |    | 自動遠心クラッチ、スパイラルベベルギア                 |             |
| エンジン型式                              |    | 単気筒空冷 2 サイクルピストンバルブ式ガソリンエンジン        |             |
| アイドリング回転数                           |    | 2700rpm~3200rpm                     |             |
| 始動時燃料供給方法                           |    | プライミング                              |             |
| 潤滑方式                                |    | 燃料混合潤滑式                             |             |
| 気化器                                 |    | ダイヤフラム                              |             |
| スパークプラグ                             |    | Champion CJ6Y                       |             |
| 使用燃料                                |    | 潤滑油混合ガソリン                           |             |
| 混合比                                 |    | 50 : 1 [SS-50 JASO 規格 FC 級] エンジンオイル |             |

※ 1 肩掛けバンド、燃料を除く

改良などにより商品の細部仕様が本書記載内容と異なることがあります。ご了承ください。



## 株式会社 新宮商行

|                |                                   |                     |
|----------------|-----------------------------------|---------------------|
| 関東支社<br>(機械本部) | 〒270-2231 千葉県松戸市稔台 6-7-5          | TEL 047(361)4701(代) |
| 北海道営業所         | 〒047-0032 北海道小樽市稲穂 2-1-1          | TEL 0134(24)1313(代) |
| 東北営業所          | 〒963-0547 福島県郡山市喜久田町卸 1 丁目 37 番 1 | TEL 024(959)6212(代) |
| 東京営業所          | 〒270-2231 千葉県松戸市稔台 6-7-5          | TEL 047(361)6831(代) |
| 名古屋営業所         | 〒463-0022 名古屋市守山区八剣 1-303         | TEL 052(768)1303(代) |
| 西日本支店          | 〒520-2134 滋賀県大津市瀬田 5-22-26        | TEL 077(500)3380(代) |
| 福岡営業所          | 〒813-0062 福岡市東区松島 6-4-17          | TEL 092(611)1988(代) |